

## IBC2008 ダブリン ギネスとスミティクスの旅

佐藤俊哉 京大医療統計

2008年7月13日(日) いざダブリン

今朝は5時半起き。コーヒーだけ軽く飲み、MKタクシーを待っていると6時半に電話があり、マンションの前に着きましたとのこと。あわてて恵子先生と降りていくがだれもいない。以前もMKさん時間に来なかったことがあるので、神宮道のほうに見に行くと、案の定別なマンションの前に止まっていた。このあと5名を拾って、満席で閑空に。予定より少し早い9時ごろ到着、KLM にチェックイン。今回は恵子先生も一緒ということで、奮発してマイルでアップグレード済みである。

まだ時間があるのでラウンジで朝食を。鮭おにぎりがまいうーだった。この後、帰国までお米はまったく食べなかった。ゲートで大森先生に会う、が大森先生はエコミーなのでほっといてさっさと搭乗。さすがにビジネスは快適で、いきなりジェネバトニック。食事は和食がよさそうなので二人とも和食と決めていたのだが、「数に限りがあるのでご希望に添えないかもしれませんが、よろしいですか」、オーバーしてしまったらランダムに決めるのだろうか。

恵子先生はウーロン茶とおとなしく、わたしは白ワイン&赤ワイン。さすがにビジネスなので食事がまずいということはない。持って行った黒笑小説(東野圭吾)を読んだり、発表練習をしたり。さすがに飽きたので映画でもみようかと思い、Enchanted(魔法にかけられて)を見だしたらこれがけっこうおもしろく、少し得した気分。

そうこうしているうちにアムステルダムに近づき、朝食はシーフードカレーとパスタ。それぞれ頼んだもののパスタは「もはやパスタではない」。ぶじスキポールに着き、大森先生と合流してダブリン行きのゲートにいくとまだ2時間近く前なので人っ子一人いない。いすに座ってたあいもない話をしながら時間をつぶし、ダブリン行きの飛行機に乗ると、これが搭乗してから45分間ぴくりとも動かない。キャンセルかと思ったが、なにごとにもなかったかのように飛び立ち、1時間10分でダブリン着。

大森先生のホテルは中心部にあるため、先生たちはAircouch、大森先生は普通のバスと別々にホテルに向かうことに。Aircouch といってもぶいぶい飛ばすわけではなく、市内の狭い道をくねくねと通っていくのでホテルまでは40分くらいかかった。Radisson SAS St. Helens Hotel は5つ星のホテルだそうで、バス停から徒歩3分と書いてあったのをなにかの間違いだと思っていたのだが、ほんとうに延々と前庭を歩いてホテルに着くまで2~3分かかった。

ホテルは5つ星の名に恥じない立派な部屋で、恵子先生も満足した様子である。もうすでに9時を回っており、半ば亡霊と化しているが、なんとかシャワーを浴びてホテルのバーへ。海外旅行の一泊目はいつもホテルのバーと決めている。ギネスと簡単なものをとオーランジェリーバーに行くと、フードは終わりとのこと。サンドイッチかなにかというそれならOK。さっ

そくソファに陣取り、まずギネス、そしてお姉さんになにか別のアイリッシュエールはないかと聞くと「なんだか」というので何べんも聞きなおすと「スミティクス」、じゃあそれ。メニューを眺めて例によって例のごとく「シーザーズサラダ」と「トーストチキンサンドイッチ」。ほどなくしてきたギネスは長旅でくたびれ果てたふたりにはもうふっは一、で「スミティクス」とやらもちよっぴり赤くてなかなかのもの。(でもどうみても **Smithwicks**。)

シーザーズサラダとサンドイッチに、スミティクスをもう一杯おかわりして、すっかりいい気持ち。10 時ごろようやく日も暮れる。今日は予想外に暖かく、疲れと酔いとで心地よい雰囲気だ。11 時少し前に部屋に戻り、直ちに亡霊寝。

7 月 14 日(月) 学会初日

今回は割りとよく寝られ、6 時半に起きる。仕度をして 7 時半に 1 階(というか半地下)の **Talavera** レストランへ朝食に行く。すると保健医療科学院のみなさんが食事をしているところで、軽く挨拶して中に入る。ブッフスタイルの朝食なのでオレンジジュース、ベーコン、ソーセージ、ホワイトブディング、チーズ、チリビーンズ、焼きマッシュルーム、パンという、後で調べたらこれぞアイリッシュという朝食。席に着くが、誰にもなんにもいっていないので『これでいいのか』心配になり、客の様子をうかがっていると、後から来た人たちは入り口でお兄さんに何かいっている。そこに行き部屋番号をいったところ、サインしろと 50 ユーロの請求書にサインさせられる。タベチェックしたときにレセプションのおにいさんに朝食がついていることは確認済みなのに? 朝食に毎日 50 ユーロ×175 円=8750 円も払っていたら破産してしまう。レストランの人に確認したところわからないのでレセプションで聞けとのこと。やれやれ。

部屋に戻ってオープニングセレモニーに。恵子先生はお留守番。8 時過ぎにホテルから大学(**University College of Dublin, UCD**)まで学会バスがでると聞いたが、朝食のことを確認しないといけないのでレセプションに行く。とタベのおにいさんがいたので、「あなた、昨日朝食ついてるいった、朝食行ったサインした、サインどうなる」みたいなことを言うと、朝食込みだから心配するな、今朝払った分はこっちでなんとかする、というのでとりあえずは矛を収めて、まだバスがいたのでバスに乗り込む。

バスに乗ると保健医療科学院の丹後先生と山岡先生たちはすで乗っておりご挨拶する。ホテルから会場の大学までは歩くところありそうで(懸命に歩いて 15 分かかった)でもバスだと一瞬で到着。今朝の会場とはちょっと離れたところで降ろされて、会場までけっこう歩かされた。レジストレーションをしているとオープニングセレモニーははじまってしまい急いで会場に。なんだか偉い人たちが高いところから挨拶しているので、プログラムを眺める。**Andrew Mead** 会長の挨拶で、最初に参加した IBC は 1986 年、といていたので、明日のプレゼンには似たような内容を盛り込むことにする。最後に **Local Organizing Committee** 委員長の **John Hinde** 先生が、「**Student Shop** でバスの乗り放題券を売っている」といていたので後で買うことにしよう。

ほどなくセレモニーは終わり、クインタイルズの松岡さんが奥さんときいていたのでご挨拶。

薬剤疫学会の楠先生もご一緒でした。今回の学会には日本人が大勢参加していて驚くくらいである。別な会場に移ってコーヒブレイクに。バス券をなんとかしないといけなくて一度ホテルに戻り、恵子先生連れて会場でバス券を買うことに。

ホテルに歩いて戻り、恵子先生とまた大学に。スチューデントショップを探しているうちに学生レストランの前に来てしまい、楠先生と松岡夫妻と一緒に話し込んでいるうちに、レストランが開いたので、ご飯も一緒に食べることになった。今日のお昼はチキンのトマトソースげろげろ煮にパサパサライス、サラダ、ショートケーキだと思ったら全部メレンゲだったみせかけデザートで、学会のお昼は期待しないで過ごすことにした。今回は過去最大の 900 人もの参加者がいるとのことで、あっという間にレストランは満員。

向こうから大森先生がやってくるが席がない。楠先生と松岡夫妻はさぼってどこかにでかけるらしく、松岡さんは『学会をさぼるといつていた』なんて書かないでくださいよ、といったあと『学会をさぼるといつていたなんて、書かないでください』、といつていたと書くんでしよう』というので、その通りに書いてみました。

食後大森先生と、スチューデントショップを探したが、大学の地図にもなく、見当たらない。大森先生が本屋のおにいちやんに聞いたところ、建物の中に入った地下だそうで、そんなの外からわかるわけもなく、恵子先生は不案内だと怒っていた。5 日間有効のパスを 18 ユーロで 2 人分買うと現金がなくなってしまう、チェックを現金に替えに歩いてホテルに戻る。ホテルのレセプションでトラベラーズチェック 200 ユーロを現金に替え、恵子先生別れてふたたび学会場に。ああ忙しい。

Breslow 先生が座長をされている Epidemiological Methods I のセッションへ。もう 2 つめの発表だった。複数の曝露情報をグルーピング化するという内容。次は感染症でよくわからず。4 つめも 2 つめの発表と似た内容で、高次の交互作用を評価せずに共変量を組み合わせてリスクの高い集団を同定するという話。次の発表はキャンセルで、この学会はキャンセルがでもくり上げ発表をせずに待っている。さすがにただ待っているのはなんなので、これまでの発表に対する質問など。最後のはあまり記憶にありません。

さて本日最後のセッション Causal Inference in Clinical Trials で京大 EBM 研究センターの大庭先生の発表。共同研究者なのでさすがに聞かないと怒られる。大庭先生の発表はまあまあで、質疑にもそれなりに答えていた。東大の松山先生もまあまあだとほめていた。ほかの発表はいまプログラムをみたのだが、さっぱり思い出せない。どういことだ？ 入り口付近で、大庭先生、京大探索医療センターの田中先生、吉村先生等々若手がたむろしていて、食事に行くといっている。恵子先生がホテルで待っているのと失礼して、帰りも学会バスでホテルに戻る。これからバスに乗って市内まで行くのも面倒なので、今日もホテルのバーで食事することに。

ダブリンは雨ばかりで寒いという予報だったが、涼しくて快適な気候である。そこで今日は庭をみながらバーのアウトサイドで食事を、と思ったら丹後先生はじめ保健医療科学院のみなさんも外で食事されていた。となりの席には喫煙集団がいてときおりタバコがにおってくる。

ダブリンは喫煙人口が多く、大学でもあちこちですばすばやっていて、歩きタバコも日常のよう。なんとかならんか。

ともかくギネスとスミティクス、今日はフードメニューも充実していて、クラブハウスサンドイッチとヤギのチーズのサラダを。こちよい風に吹かれて、7時というのにまだ日も高いうちからビール。サンドイッチも昨日のよりはずいぶん高級だし、ヤギのチーズがおいしく、恵子先生が朝食会場にあったというので明日からは毎朝ヤギのチーズ。さすがにだんだん寒くなってきたので、今日は一杯ずつでお開きにして、部屋でシャワーを浴びて亡霊寝。

## 7月15日(火) プレゼン2つ

今朝は7時過ぎに眼が覚める。海外旅行にしては驚異的によく寝られている。今日は2時から Conference Advisory Committee で IBC2012 を日本に誘致するためのプレゼン、4時15分からはセッションで発表と大忙しだ。今朝は朝食会場ですんなりいき、グレープフルーツジュース、ホワイトプディングのチーズのせ、ヤギのチーズ、焼きマッシュルーム、焼きトマト、ハムとパンの豪華な食事をする。フルーツバーにシードレスグレープがあったのでそれまで食べてさすがに食べすぎである。

今日はわたしが一日学会なので恵子先生も会場に行くとのこと。市バスで会場に向かう。ホテルの前の道路には横断歩道がなく(歩道橋あり)横断するのが一仕事、がなんとかわたってバスを待つ。さっき行ったばかりでなかなか来ない。ようやく 46A に乗り込んで一瞬で UCD に到着。会場でペンシルバニア大の Susan Ellenberg 先生につかまり、なんだか早口でまくしたてられる。どうやら明日の観光ツアーが終わった後、一緒に食事をしよう、でも申し込んであるリテラリー・パブ・クロールツアーが明日の夜と書いてあるので、今晚かどうか確認してくる、といった内容だったらしい。わたしは Causal Inference through Marginal Structural Models and Dynamic Models のセッションを聞くというと、恵子先生はそんなの聞いたらかおかしくなっちゃうからと外で国際医療センターの石塚先生とずっと話しをしていた模様。

セッションは Vansteelandt 先生の話は大庭先生の話とよく似ていてまあまあわかったのだが、Robins のところの Hernan 先生は英語がよく聞き取れないし、Odd Aalen 先生はなんだかわけのわからない linear SEM の話し、最後の Venessa Didelez 先生にいたっては Pearl の DAG となにが違うのか理解できなかった。このところ食べすぎなのでお昼は食べなくてもいいやと思ったが、コーヒーだけでも飲もうと食堂にいったら最後結局ポテトと菜っ葉のホワイトソースみたいな一皿を恵子先生と食べることに。大庭先生が昨日のお昼よりはましです、といていたのは本当だった。

さて2時からはいよいよ Conference Advisory Committee、日本を代表して IBC2012 を誘致する責任を負ってプレゼンして、結果2年前はブラジルに負けてしまった。今回はそのあだ討ちであるが、立候補しているのは日本だけ。とはいっても気は抜けない。丹後先生と山岡先生もきて委員会ははじまったが、最初の30分は general な議題を話して、それから日本のプレゼンの順になった。Invited session のスピーカーの旅費を持つかどうかとか、ブラジル

で IBC2010 を開催するとき、ブラジル統計協会のメンバーの参加費をどうするか(IBC の会費 1 年分+途上国参加費を払ってもらい、ことになった)とかを話し合い、いよいよ日本のプレゼン。

持てる力のすべてを出してプレゼンし(2 年前もそうだったのだが)、最後に神戸のビデオを見せて終わり。なんとなく質問はおざなりで、8 月末の気温はどうだとか、500 人の見積もりで 900 人きたらどうするんだとかそんな話でがっかりした。それにしても Tom Louis 前会長のいっていることが聞き取れず閉口した。そんなこんなで外に出され、ぐったりするのもつかの間、次は Causal Inference in Medical Research のセッションで発表。日本の若い人たちがみんな聞きに来ているので無様なところはみせられないが、いかんせんお客が少なくていまひとつ盛り上がり欠ける。

最初の発表者は自分でもなぜ causal inference のセッションにいれられたのか分からないとあって、発表が終わったらさっさとでて行ってしまった。2 番目の中国の学生さん風は Mendelian randomization とはいいいながら操作変数推定量の話で終始したし、3 番目の VanderWeele 先生は Robins のところの最近売り出し中の若手だが、次の演者がキャンセルしたのでゆっくりしゃべるとかいいながら 20 分も使ったのでそれはルール違反だろう。Rothman の component cause model を反事実の枠組みでという内容なのだが、簡単な場合でも複雑になりすぎるのが難点(仕方がないのだが)。

さて、練習のときは時間がぎりぎりだったので、あちこち削ったりスライドを 2、3 枚スキップしたりしたら今度は少し早く終わってしまった。ま、時間が少し押してたのでよしとする。珍しく質問も 2、3 出て、まあそれなりの質問だったのでそつなく答え、ぶじ発表も終わる。セッションが終わってから、座長の Vansteelandt 先生や VanderWeele 先生に good presentation とかお世辞をいわれるが、君たちが生まれるずっと前からこのテーマをやっているんだからね。恵子先生にできを聞くと珍しく 80 点をくれたので、大庭先生よりましだったとほっとする。これで今回の学会はすべて終わり、あとはおまけみたいなもの。

大庭先生と田中先生が食事に行きましょうというので、今日はさすがにみんな一緒と思っていたのだが、大森先生はミュージカルツアーに行くというし、ほかの東大の面々は松山先生や北大の伊藤先生と一緒に食事に行くというので、大庭・田中組と市内に行くことに。学会バスで一旦ホテルに戻り、4 人で市バスで市内に。大庭先生、田中先生に昨日一昨日とホテルのバーで食事をしたんだというので、「あそこはよさそうですね」というので金曜の夜は一緒にバーで食事をすることにした。ご両人は昨日も市内で食事をしたというので、どこにいったのか聞くとアメリカンレストランなどとふざけたことをいっている。だいたいパブに入ろうといっているのに、ここはフードがある(レストランだからあたりまえ)、ここはよさそうだ(「ハイネケン」なんて看板がでている店に)とへんなところに入ろうとする。

業を煮やしてバスからみえたパブ O'Neill に行こうと 4 人で O'Neill に入る。まずはビール、ここでもギネス以外にアイリッシュエールはあるか聞いたのだが、やっぱり「スミティクス」。それではホテルのバーとおなじである。が、まあいかにもアイリッシュパブらしい雰囲気なので、

ギネス 2 杯とスミティックスを 2 杯。食べ物は大庭先生と田中先生が一階で買ってくるというので、恵子先生は懸案のアイリッシュシチューをオーダーする。しばらくして戻ってくると、大場先生が持ってきたのはフィッシュアンドチップスとギネスビーフシチュー。アイリッシュシチューじゃないじゃないかと怒ると、こっちのほうがうまそうだったので。さらにソーセージアンドチップスまできて、チップスの山となるが、さすがアイルランドこれがなかなかいける。

大庭先生と田中先生は偶然行きのルフトハンザが一緒だったそうで、ダブリンに早くついたので、チェックインする前に(大庭先生は大学の寮、田中先生は B&B)、市内観光をしたらしい。トリニティカレッジの前で調子に乗って写真を撮っていたら、いつの間にか田中先生ポスターがなくなっていた。どうやら写真を撮るのにポスターを置いてそのまま忘れてきてしまったらしい。

ビールをお代わりして、お腹も一杯ですっかりいい気持ちになり、ふらふらとまだ明るい中をホテルに帰ることに。46A のバス停を探しているとリテラリー・パブ・クロールだかに参加中のスーザン先生とばったり出会う。トリニティカレッジの前を通ると「このへんでポスターをなくしたんですよ」と田中先生。トリニティカレッジの脇でバス停は見つかるものの、田中先生、大庭先生は DART(電車)で帰ってみるというのでここでわかれて、バスでホテルへ。もうすっかりできあがっているので、シャワーを浴びて寝ることに。

#### 7月16日(水) ギネスストアハウス

今朝は Cox 先生の講演があるということで、朝からセッションに行くので早めに起きる。朝食をとり下のレストランに行くと恵子先生いわく「じろじろ見つめるおじいさんがいるので、隠れた」とのこと。「Cox 先生がお食事されていた」というと「どの人?」と聞くので、見るとくだんのじいさんだったのでびっくりした、なんて罰当たりな人です。すでに日常と化した食事をとり、学会バスで大学に。来週の講義の資料を秘書の小林さんに送らないといけませんが、昨日からホテルのインターネットがつながらなくなっている。仕方ないので今朝はパソコンを持って会場にいき、会場の無線 LAN で資料を送って、午後からはツアーなので一旦ホテルに戻ってパソコンを置いてゴセットの特別セッションに出ることにする。

会場には珍しく鍵村さんがいた。なんでもゴセットセッションはこむとの予想なので、恵子先生に席とりを頼んで、外で小林さんにメールを送り、市バスでホテルに戻ってパソコンを置いて、また市バスで会場に帰ってきたら…。もう階段にまで人が座っていて入り口にも何人か群がっていて人であふれているではないか。入り口で飛んだり跳ねたりしてみたが、どうやら恵子先生の予約席には誰かがすでに座っている模様なので、あきらめてスーザン先生が座長をされている隣のセッションへ。せっかくのゴセットセッションを聞けずたいへん残念。



セッション終了後 Cox 先生を発見したので、恵子先生に写真をとってもらう。このあとはすぐにツアーなので、大森先生と 3 人でダブリンシティツアーのバスに。ツアーにはギネスストアハウスがついているというそれだけで申し込み、途中ダブリン城とかに寄るのだが、そんなのどうでもよろしい。まあお城とはいってもダブリンだからね。次はなんだか有名な図書館で昼食。

ベジタリアンのロールとサラダで、ダブリンにきてから食べすぎなので、3分の1ほど残す。図書館の前の迷路のようなところを 3 人で歩き回って出発までの時間をつぶす。Samuelson 先生がおなじツアーにいたので話しかけ、ケース・コントロールサンプリングのサミュエルソンかと聞くとそうだというので少し話をする。

ギネスストアハウスには 3 時過ぎくらいに着く。それにしてもここを 4 時半に出発してホテルには 6 時過ぎ着とはどういう了見なのだろうか。ギネスストアハウスはもう各人勝手に見て歩き、4 時半になったらバスに集合というアバウトなスケジュール。もうすっかりくたびれたので、すべてをスキップして一直線に最上階のグラビティーバーまで行き、3 人でギネスを飲む。おねえさんがわたしのギネスにだけ四つ葉のクローバーを描いてくれた。

大森先生は下のショップでおみやげをたくさん買っている。T シャツでもとみるとギネスのロゴつきは値段がただでさえも高く、ましてやユーロを円に換算するとばかばかしいくらい。バスはこのあとまっすぐ帰るのではなく、市内のスポットをぐるぐる回るのでホテルに着くのも遅い道理である。大森先生は一足先にシティセンターで降りて、先生たちはよれよれになって 6 時過ぎにホテルに到着。

今晚はスーザン先生と市内に食事に行くことになっているのだが、もうとても面倒なので、ホテルのバーで食事をしようと提案することに家族会議で決定した。スーザン先生のツアーは少しのびたようで 7 時過ぎにロビーに現れ、いやいや今日は疲れたというと、スーザン先生もツアーで疲れた、ついでにはこのバーはとてもよいのでバー食事をすることを提案する、というので、一も二もなくイエスイエス。バーに入るとスーザン先生のおしりあいの方がいて、「Almost everyday here」とみんなおなじである。

ここに座るのよ、とかなんとかいいながら。スーザン先生は恵子先生をとなりに座らせ、やる気まんまんのよう。スーザン先生はキッシュがおいしかったというので恵子先生はキッシュ、わたしは鴨のサラダ、スーザン先生はチキンカレー。先生たちは定番となったギネスとスミティクス、スーザン先生はなぜか白ワイン。後はひたすらスーザン先生のマシンガントークを聞

かされるはめに。ペンシルバニア大学では研究をする前に、研究倫理やらなにやらひととりのコースを聞かないといけないそうで、カリキュラムも整っているとのこと。

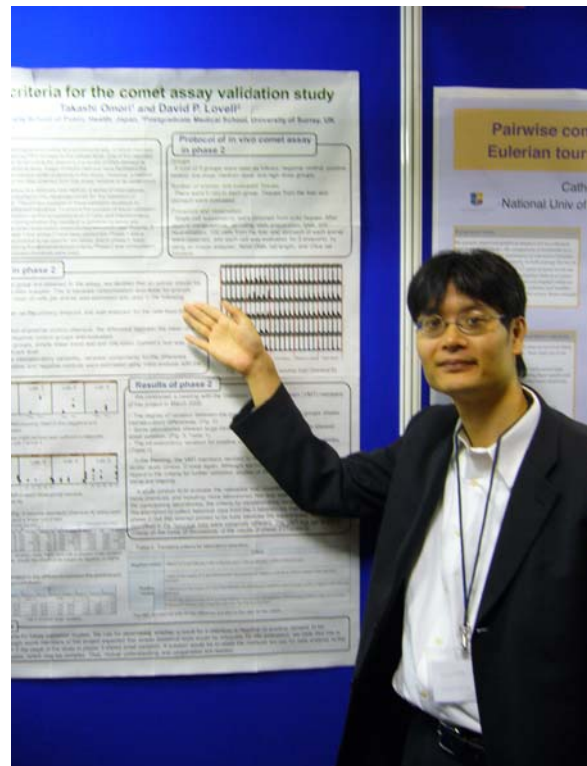
昨日大庭先生が飲んでいたドイツのエルディンガーを頼み、これがまたおいしいビールだったのでにこにこしながらふたりの話しを聞いている。そのうちスーザン先生はデザートを頼むといいだして、パンプディングのような甘ったるいへんなにおいのするものを食べさせられた。最後はペンシルバニア大と京大で一緒にできるといいね、とうまく話がまとまり、スーザン先生は明日の午後アメリカに戻るので美術館めぐりをするか学会にでるか迷っていたようですが、推してしるべし。

毎日爆眠で今日も 11 時ごろには亡霊寝。

7月17日(木) 靴の底のようなローストビーフ

今朝も 8 時ごろまで爆眠して、いつもと変わらない朝ごはんに目玉焼きまでつけてお腹いっぱいになる。10 時 45 分からのセッションで東大の竹内文乃先生が発表なのででかける。恵子先生は、部屋でお留守番。市バスで行くつもりだったのだが、ホテルをでると道の向こうに市バスの停留所に行きかけてやめて歩き出したスーザン先生がみえた。道をわたると確率 1 でつかまってしまい、一緒に大学まで歩かされる羽目。道々、例によってマシンガントーク、が、なにを話されていたのかさっぱり思い出せない。

会場につきスーザン先生とは午後の Council Meeting でまた会うことにし、とりあえず大森先生のポスターについて、自慢のポスターを鑑賞しないと。みな当然、一枚もののポスターを作ると思っていたのだが、そうすると筒にいれなければならず、飛行機でもってくるのがたいへんだとのことで、大森先生、A4 の紙を貼り合わせるという荒業にでて、みんなそんなのうまくできるはずはない、というのであるが、大森先生は自信満々。そのできばえが右の写真、多くは語らない。でも確かに一枚紙のポスターは持ち運びが不便で、松岡さん、東大の大津先生、伊藤先生は薄い布に印刷したポスターを持ってきていた。布なら折りたためるそう



だ。竹内先生が発表する、Model Uncertainty and Diagnostics のセッションへ。環境研の新田先生との共同研究である PM2.5 の短期影響評価に、曝露の measurement error を考慮したもの。フロアからは nonlinear model なのに measurement error が曝露効果を薄める方向に働いていて、安心した、というコメントがあった。



発表はなかなかどうしてたいしたもの。今日は午後から Council Meeting があり、このところ食べすぎなのでお昼は抜くことにする。

IBC の木曜はいつも 1 時半から 5 時半までみっちり Council Meeting。実はまだ火曜の Conference Advisory Committee の結果を聞いていなかったのだから、昨日から Andrew Mead 会長と Tom Louis 前会長を探しているのだが、みつからず Council Meeting の開始前によくやくトム先生から日本での開催を推薦することにした、と聞きほっとする。これでようやく肩の荷が下りたような、いやいやこれからはむしろたいへんなような。丹後先生には今朝伝えたとのこと。今年からは松山先生も新 Council となり、一緒に会議に出席。たばこくさいなどと書いてもだいじょうぶなのだろうか。こまごましたことが議題にあがるが、最初に各支部間のネットワークのことが報告され、東アジア地域でもネットワークができつつあるようだ、とそういうところが評価されているよう。

Conference Advisory Committee からの報告があり、神戸開催が推薦される。Council メンバーの反応も好意的。これからがたいへんなので、気を引き締めて準備にあたらなないといけない。『日本で開催しても 300 名くらいしか参加者はいない』という意見もあり、そんなことにならないよう魅力的な会議にしないと。会議は少し早く終わり、スーザン先生がホテルまで歩いて帰るといので、市バスで帰るつもりだったのに、またまた歩かされる。帰る道々、日本での IBC84 はすばらしかった、ということをおっしゃっていた模様。

恵子先生と準備をして学会ディナーに。例によって学会バスはいつくるのかわからないので、市バスで大学へ。いきなりギネスかと思ったが、ドリンクはワインやジュースといったふつーなもので、「ギネスはないのか」と聞くと、ビールは食事が終わってからバーが開くとのこと。白ワインにして、恵子先生はオレンジジュース、混雑でごった返している入り口あたりををうろうろ。

食事は着席スタイルで、恵子先生、大森先生、石塚夫妻とテーブルに、あとはイギリスの製薬会社 3 人組、イタリア人 2 人組の席。前菜のサーモンはなかなかおいしく、大森先生はダブリンにきて一番おいしいといていたので、驚いてなにを食べているんだと聞くと、昨日はファーストフードでカレーを食べた、もう勝手にしなさい。かわいそうなので、金曜はホテルのバーで一緒に食事することに。

しかし、しかしである、次に出てきたのは、山盛りのマッシュポテトの上に厚さ 3cm はあろうかという巨大なローストビーフ。しかも、恵子先生のはウェルダンダダーンというしろもので、端から食べようと思ったら、歯が立たないらしい。わたしのは中がまだ赤く少しやわらかかったのだから、それを少し分けて、あとは端っこを落として真ん中の部分だけ食べる。ところがおなじテーブルのおねえさんたちや、おじさんたちは、みんな普通に食べていたので、やっぱり肉食人種は違う。次に出てきたのはチョコ味のムース、恵子先生は半分でお手上げ、チョコ好きのわたしも一口食べたただけであきらめる。

食器が片付けられると、ろうそくを手に、マントを着たお姉さんが歌を歌いながら会場に登場。アイルランドの伝統的な歌のようで、男性 4 人、女性 4 人のアカペラ・コーラス隊であった。

十分堪能し、もう 11 時過ぎで眠くなったので帰ることに。大森先生も市内まで帰るので一緒に出る。日本で IBC をやるんだったら、もう少しおもしろいアトラクションが必要か。

シャワーを浴びたらもう亡霊寝。

7 月 18 日(金) ケルズの手紙

今朝もゆっくり起きてゆっくり食事、目玉焼きつき。10 時 45 分からの Two-Phase Study Protocols in Epidemiology を聞きに行く。学会は午前中で終わりなので、恵子先生には 1 時ごろ大学まできてもらうことにして、市バスででかける。伊藤先生と布ポスターについて話をしてセッションへ。セッション最初はドイツの人がマッチドケース・コントロールをさらに 2 段階で、という話しをしていて、そういう場合は 2 段階目のサンプリングもマッチを考慮しないとイケないんじゃないかなー、と書いていたら、やっぱりそういう質問が。答えはなにをいっているかよくわからなかった。

2 人目は Breslow 先生。なつかしや、ARIC のデータについてコホート内ケース・コントロールとケース・コホート解析をしたときの話しをされていた。次のスコットさんはなにをいっているかわからず、指定討論の Jim Hanley さんは薬剤疫学の立場からデータベースを用いた 2 段階デザインの話しをする。

これでセッションは終わり、後は閉会式を残すのみ。いつもは閉会式なんかでないが、最後に次期開催国のブラジルがプレゼンする。次回のブラジルでは日本がおなじことをしないといけないので、なにごとにも勉強。最初は学会の表方、裏方さんたちの表彰、学会賞の表彰があり、いよいよ次回開催国ブラジルの登場。しかし、これがまたサンタカロリナ州の宣伝ビデオをみせたのですが、観光ばかりでいつ学会にでたらいいの、という内容。

閉会式も終わり、恵子先生が会場にきていることを確認してからもう一度会場に戻って、会長のアンドリュー先生、副会長のトム先生、事務局の Dee Ann さんなどに挨拶して、これでようやく学会は終わり。

みなさん IBC2012、ご協力よろしくお願ひします。